



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2022

1月28日号

186
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒963-0201 郡山市大槻町字原ノ町3-1 TEL/FAX 024(954)7595

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

新年に思う



副会長 佐藤 龍一

新年あけましておめでとうございます。2022年の年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

思い返せば2019年12月、中国・武漢市で確認された新型コロナウイルス感染症の拡大により、ここ2年間厳しく制限された生活が続いております。本来であればこの時期、忘年会・新年会と職場を離れてのコミュニケーションも多かったのではないのでしょうか。昨年は2回のワクチン接種等により、感染拡大は一時抑え込まれた様に思いましたが、アルファ株に始まったウイルスは、13番目の変異株‘オミクロン株’により第6波の感染拡大も懸念されており、我々の職場でも3回目のワクチン接種が始まりました。しかし、昨年末には全国各地で市中感染も確認されており、予断を許さない状況となっております。2021年12月23日現在までの国内の新規感染者数は、2020年：23万6,055人、2021年：149万4,723人と、2020年と比べて2021年は約6倍となり、昨年春の‘第4波’と夏の‘第5波’の影響が大きく、特に第5波の8月だけで新規感染者が約57万人とこの2年間の全感染者の3分の1を占め、その前後の月を含めると約91万人と半数を超えていたようです。(朝日新聞より一部抜粋)この様な状況で、県内でも病床数が逼迫し感染者の入院等で皆様の職場・身辺においても緊張の連続ではなかったでしょうか。年が明け1月4日現在、全国の感染状況は1,000人を超え、全国各地でオミクロン株による市中感染の拡大の兆しがありますが、今後、新型コロナウイルス感染症がワクチン・治療薬の開発・普及により季節性インフルエンザと同じような感染症に変化していくことを願うばかりです。

さて今年の技師会活動ですが、昨年同様Webを活用し一部対面型での運用となるのではないかと考えております。会としましても、Web開催のためのカメラ・マイクに始まり、昨年購入しました郡山の事務所の備品の充実に努めておりますので、会員の皆様のご活用をお願いします。また、前号でも阿部副会長が触れておりました告示研修が2月に開催されます。今後の開催につきましては未定ではありますが、開催決定後は速やかに会員の皆様に広報して参りますので、多くの方に受講して頂ければと思います。

最後になりましたが、昨年より副会長という大役を仰せつかりましたが、現状を鑑みますとまだ会員の皆様と直接会って会務を進めることが難しい状況にあります。このような時だから出来ること、しなければならないことを考え、会長を中心に会務を進めて参りますので今年も技師会活動にご理解・ご協力宜しくお願いいたします。

皆様にとって、輝かしい1年となりますことを祈念しております。

福島県立医科大学 保健科学部診療放射線科学科だより

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 久保 均

皆さま、新年あけましておめでとうございます。本年も、どうぞよろしくお願ひいたします。

年末の新型コロナウイルス感染者数の激減もつかの間、急激に感染者数が増えてきています。福島県も増加の一途であり、市中感染も増えてきているように思います。オミクロン株の特徴なども徐々にわかりつつありますが、医療従事者としてまた緊張した暮らしが始まってしまいそうです。非常に残念ではありますが、医療界総力を挙げて対応するしかないですね。がんばりましょう！

今回は、前回に引き続いて診療放射線科学科の現状をご報告いたします。

先生方、GPあるいはGPAってご存じですか？大学、あるいは専門学校で学ばれた際に、成績はどのようにつけられていましたでしょうか？多くの場合は「優」「良」「可」「不可」で成績がつけられ、もちろん「不可」の場合は単位を取ることができなかつたと思います。今も基本的な成績のつけ方は変わりませんが、大学成績評価と言ひ、点数で表現されています。これがGP (Grade point) であり、その平均をGPA (Grade point average) と言ひます。保健科学部の場合、次の表のようにGPがつけられます。

ちょうど、評価区分「A」が「優」にあたりますが、その上に「S」という評価ができてるのがわかります。ちなみに、「D」が「不可」ですので単位取得ができなかつたとなります。

このGPAは、大学毎に評価区分が異なつていて、比較評価ができないところを数値化することで比較しやすくする目的があり、様々な審査や大学院入試などでも参考にされ始めています。保健科学部でも、学期毎にGPAを出して学生にフィードバックし、自身の状況をしっかりと把握する事に役立ててもらっています。年末には令和3年度前期GPA表彰式を行い、4学科それぞれの成績上位1名が表彰されました (<https://fmu-hs.jp/news.html?id=116>)。今後もこのような機会を作り出し、学生のモチベーションを高める方策を進めて参ります。

評価区分	GP	評点	判定
S	4	90-100	合格
A	3	80-89	
B	2	70-79	
C	1	60-69	
D	0	0-59	不合格

さて、令和3年度の1期生が入学してあれよあれよという間に年末年始となつてしまいましたが、既に令和4年度(2期生)のための入試が始まっています。学校推薦型選抜試験が、令和3年12月4日、5日に実施されました。この試験は1期生の時と同様に福島県内の高校を対象としたもので、診療放射線科学科は10名以内の定員でした。各学科の志願倍率は次の通りです(括弧内は令和3年度)。理学療法学科:2.25倍(1.44倍)、作業療法学科:1.44倍(1.81倍)、診療放射線科学科:2.40倍(2.60倍)、臨床検査学科:2.13倍(2.00倍)。合格発表は令和3年12月22日に実施し、診療放射線科学科は10名の合格者を出しました。10名の皆さんが本学に入学していただき、我々と一緒に勉学に励んでいただくことを期待します。また、次は一般選抜試験があります。令和4年2月25日、26日に実施します。合格発表は3月8日の予定で、これで全ての定員が定まることとなります。さて、今回は何名の受験生の方々に受験先として選んでいただけでしょうか。令和3年度は7.9倍というちょっと考えられない志願倍率となりましたが、今回は2回目ということもあり落ち着いてくると考えております。面接試験等を行う関係で定員の4倍で第一段階選抜を実施せざるを得ないのがとても残念ではありますが、志を持った我こそは、という方々にチャレンジして欲しいと思っています。

現在、我々は来年度の時間割等の調整を行っています。2年生になると専門科目が一段と増えてきて、画像診断・核医学・放射線治療の機器工学や診療画像検査学、診療画像工学、関係法規等の講義、そして放射線基礎科学実験や機器工学実験等の実験が入ってきます。先生方も経験があると思いますが、全ての科目に興味を持てる訳でもなく、好きな科目と嫌いな科目がどうしても出てくると思います。でも、好きな科目は思いっきり勉強してどんどん伸ばしていつて、そうでない科目も最低限国試に合格できるレベルだけは維持できるようにして欲しいです。

このコロナ禍にもかかわらず、学生さん達は元気に勉学に励んでくれています。先輩がいなくて大学生活というものを自分たちで創りあげていかなければならない大変さがありますが、皆さんたくましくがんばっています。ただ、我々から見て少々気になるところもあります。皆さん元気いっぱいなのですが、少々華奢かな…と思うことがあります。我々医療従事者は患者さんらを救う仕事を行います。患者さんらを救うためにはまずは自分自身がしっかりと体力をつけてちょっとやさそとではへこたれずに済むように、しっかりと体力をつけて欲しいですね。我々は保健室の保健師さんや看護師さんらとも連絡をとりながら学生の生活面も含めて気を遣って見ており、必要と思えば指導等も行っています。これから、何かと私どもの学生さんらと交流できる機会ができてくると思っておりますが、その際は暖かくご指導いただければ幸いです。

そういえばですが、年末に千代田テクノルさんが出しているFBNewsの取材のために本学にお越しいただき、診療放射線科学科の施設を中心に取材をされました。久保が対応させていただき、診療放射線科学科の成り立ちなども含めて現状を紹介させていただきました。非常に興味深く見ていただき、様々な部屋の写真等も撮影されていました。千代田テクノルさんのガラスバッジをご使用の施設であれば、これから来るFBNewsのどれかに施設訪問記として取材内容が掲載されると思いますので、ご覧いただければ幸いです。



令和4年が始まりました。新型コロナウイルス感染拡大は不穏な動きを見せておりますが、早く終息して元に近い生活を送れるようになると良いですね。先生方の本年の益々のご活躍と、ご所属のご施設の益々のご発展を祈念いたしております。

～会長 「オンレコ」～

1 「中間監査」

執行部の落ち度もありましたが、揉めてしまい中間監査は出来ませんでした。Web開催の日当についても、認められず平行線のままでした。まずは、事務員の雇用を検討したいと思います。

2 「ファシリテーター養成・告示研修(義務)」

11月末に延期になりましたが開催し、県内から10名のファシリテーターが要請させました。福島県では、2月12・13日の両日(土日)で2回の開催を福島医科大学保健科学部で予定します。ぜひ参加をお願いいたします。また、北海道から告示研修について東北地域に応援要請があり、太田西ノ内病院の大原氏が応援に行きました。

来年度は、各地区での開催を予定するつもりで検討します。

3 「第4回理事会」

中間監査や告示研修の件も含めて集合開催を模

索しました。最終的には、初のハイブリッド開催を行いました。私の不手際もあり、初めてのハイブリッド開催には課題もあり、今後改善して行きたいと思います。懸案のWeb開催での会議についての日当は、今回も継続審議とします。急務の事務員雇用も決議され募集を開始します。

今回は事務所で開催した事により、1階奥のエアコン等の必要な備品が分かってきました。

4 「福島放技ニュース第185号の修正」

会長オンレコの3で、「…県技師会から余ったネームホルダーを寄付して…」との記載は誤りでした。「…県技師会へ余ったネームホルダーを寄付して…」に修正いたします。TCRT2021から県技師会へ寄付していただきました。

5 「TCRT2021の会計監査」

福島医大の樵氏に会計をまとめていただきました。1月13日にWebで監事に説明を行います。

地区だより

会津地区

「第103回 会津画像研究会」開催

令和3年11月25日(木)にWeb開催され、会員36名、非会員3名の参加がありました。今回の会津画像研究会は、「若手技師へ向けたフレッシュセミナー」と題して、一般撮影・CT・MRIの演題がありました。

一般撮影では「画像からその後の診療へ～股関節領域をピックアップして～」と題して、会津中央病院・渡邊晶氏、CTでは「頭部CT～出血性脳卒中を中心に～」と題して、会津医療センター・吉田賢氏、MRIでは「頭部MRI～虚血性脳卒中について～」竹田総合病院・早瀬堯也氏より講演して頂きました。

基礎知識や解剖を中心に、一般撮影では変形性股関節症の方は前捻角で脱臼しやすい、術前計画での正確な画像の重要性など、CTでは脳出血好発部位や出血の割合、各種出血の解説、血腫量の計測方法、治療方法、3D-CTA撮影パラメータなど、MRIでは拡散強調画像(DWI)とADCマップ画像の比較の重要性、DWI画像とFLAIR画像の比較による経時的变化の推定(DWIとFLAIRのミスマッチ)の重要性などを具体的に解説して頂き、若手技師だけではなく視聴した全ての技師のスキルアップに繋がったのではないのでしょうか。

会津画像研究会は、今年度内にもう1回予定しております。開催日時や参加方法等は、福島県放射線技師会のホームページにも記載されますので、多くの方に参加して頂ければと思います。

(平澤)

「2021年度 会津乳房撮影研究会」開催

令和3年12月21日(火)に竹田総合病院を配信会場としてWeb開催で行われ、県技師会会員16名、非会員2名の参加がありました。昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から開催を断念しました。また、例年は市町村の乳がん検診開始前の5月に開催していたため、約2年半ぶりの開催となりました。

今回は、バイオプシーがテーマでした。デバイスコアメディカルジャパンの渡邊さんには「最新機種マンモトームリボルブの特徴や従来品のマンモトームとの違い」と題し、画像や動画を交えて説明をしていただきました。会津中央病院の鈴木さんには「ステレオガイド下マンモトームの手順について」と題し、実際の撮影の手順やそれぞれの場面での注意点について教えていただきました。同じく会津中央病院の森さんには「ステレオガイド下マンモトームの症例紹介」と題し、バイオプシー前の検査から術後までを追った症例を紹介していただきました。

バイオプシーの最新情報と実際がわかる貴重な機会となり、また、機器更新の時期を迎える施設もあり、参考になる内容だったのではないのでしょうか。



(小林)

編集後記

新年あけましておめでとうございます。本年も広報編集委員をよろしくお願いたします。

年明け早々、デルタ株とオミクロン株による第6波が県内にも押し寄せ、ニュース発行時は収まっていることを願うばかりですが、まずは感染予防の基本に立ち返り、ソーシャルディスタンス・マスク着用など、一人一人が出来ることを着実に、今冬を踏ん張って明るい春の訪れを皆様と共に待ちたいと思います。

(風間)